文章作成・推敲教育に向けた詳細なアウトラインの仕様設計と修辞構造情報付与の試み

藤田 篤 (NICT), 柏野 和佳子 (国語研), 大塚 裕子, 冨永 敦子, 椿本 弥生 (未来大)

- 高等教育機関における文章作成・推敲教育の方法論を検討中
  - 詳細化アウトライン: 文章を書く前に内容の論理性や構成を吟味するための道具
  - 修辞構造情報: 構成要素間の関係を意識させる, 添削を円滑化するための道具
- 進捗: 仕様書の作成, アウトラインデータの収集, 修辞構造情報アノテーション

What-to-sayレベルの推敲を可能にする道具が必要

- 文章の推敲時には解消すべき2種類の問題が混在
  - 論理性 (what-to-say) の問題: 内容の是非, 情報の過不足, 論理の道筋・展開
  - 言語表現 (how-to-say) の問題: てにをは, の-の, です/である, 誤字, 脱字, 表現の統一
  - 推敲・添削は局所的・表層的な処理に留まりがち [Faigley+, 81][飯田+, 13]

文章にしてしまうと論理構造が見えないからでは?

提案1. 詳細化アウトライン

- 文章にする前に内容の論理性や構成を徹底的に吟味しよう!!
  - 内容の網羅: 最終的な文章に含める内容をすべて列挙
  - 内容の構造化: スプレッドシート上で細かい情報 (句や節) に分解しながら構造化
- 仕様の定義 ⇄ アウトラインの作成・修正 (800〜1000字の意見文を想定)
  - 1周目 仕様書と模範アウトラインの作成: 小論文の模範解答から逆算 (3件) [加藤, 14]
  - 2周目 仕様書の更新 (計22項目): 業者による新規作成 (21件; FY2013データ)

提案2. 修辞構造情報

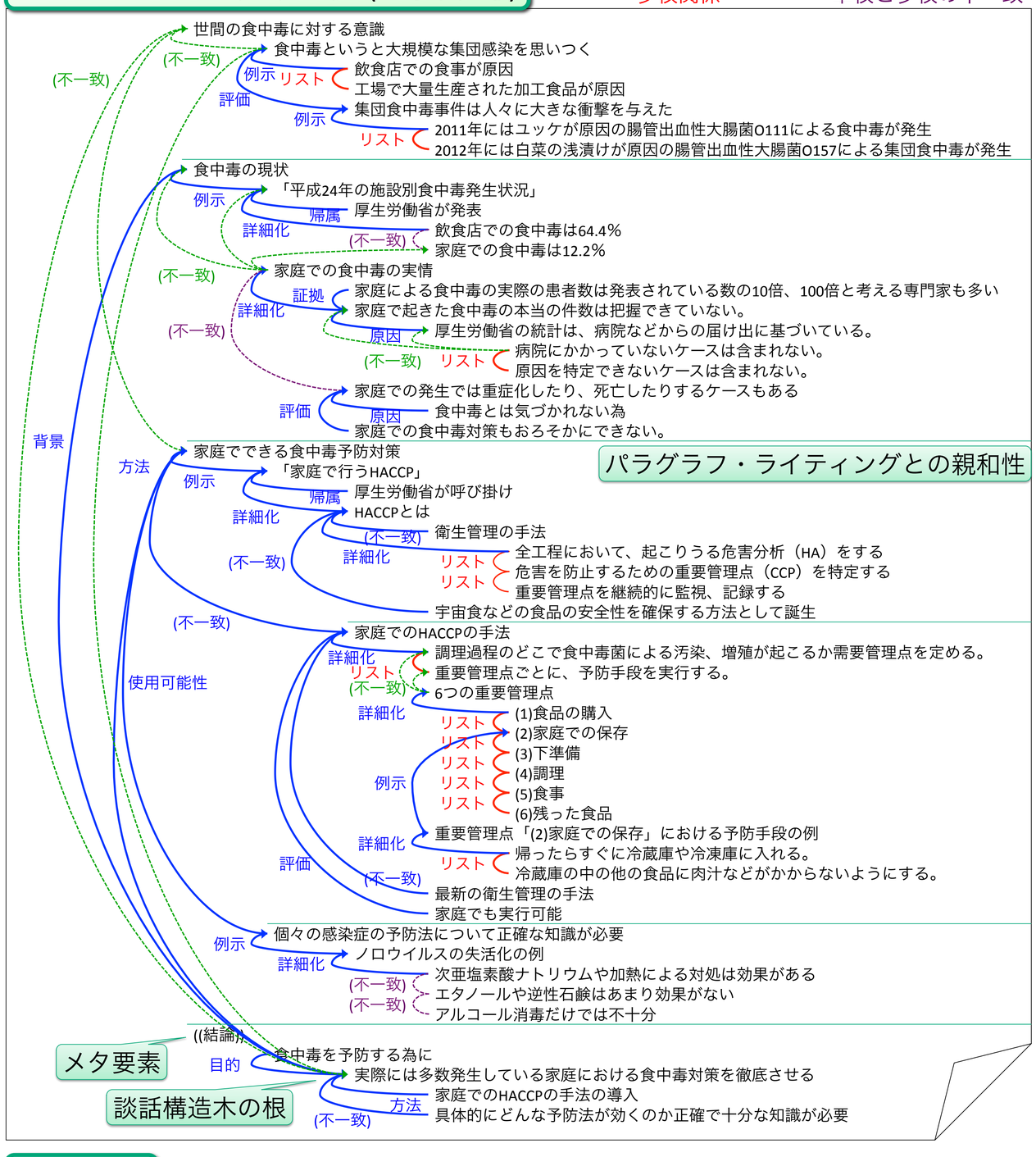
- 指導者による添削およびピアチュータリング用のメタ言語
  - 修辞構造理論 (Rhetorical Structure Theory) [Mann+, 88] の関係を決定木で再整理 [加藤, 14]
    - 単核関係 (16種類): D1. 著者の解釈/意見(証拠, 理由づけ, 評価), D2. 因果関係(原因, 結果), D3. 条件(条件, 使用可能性), D4. 明確化(言い換え, 要約, 比較), D5. 情報付加(方法, 目的, 背景, 例示, 詳細化, 帰属)
    - 多核関係 (4種類): P1. 対照(対照), P2. 時間順序(継起, 逆継起), P3. 並列構造(リスト)
  - アノテーション手続き: 局所的な関係をボトムアップに同定, トップダウンに見直し

アノテーション結果

- FY2013データ中の8件, 4名
- 比較的高い一致率
  - アウトラインの品質を反映
- 関係の種類の不一致
  - D1 (主張)? D5 (情報付加)?
  - D5の下位分類
    とくに背景, 例示, 詳細化

		4名一致						3名以上一致					
		係り先		8分類		20分類		係り先		8分類		20分類	
ID	要素数	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率
A	44	23	52%	17	39%	16	36%	35	80%	26	59%	24	55%
B	57	29	51%	21	37%	17	30%	46	81%	40	70%	37	65%
C	37	28	76%	17	46%	17	46%	32	86%	25	68%	25	68%
D	55	38	69%	31	56%	27	49%	50	91%	43	78%	42	76%
E	47	26	55%	12	26%	9	19%	37	79%	26	55%	23	49%
F	46	25	54%	20	43%	16	35%	33	72%	31	67%	29	63%
G	27	16	59%	7	26%	7	26%	20	74%	15	56%	14	52%
H	35	21	60%	17	49%	14	40%	29	83%	24	69%	22	63%

アノテーション結果の例 (D: 食中毒)



教育実践

[冨永+, 15]

- 文章表現授業@公立大学2014年度後期, 1年生必修, 約300名
  - 詳細化アウトラインの仕様, 修辞関係 (単核関係の粗い5種類のみ)
  - ☺ 119名: 内容の検討が容易, 問題の発見が容易, 執筆がスムーズ化
  - ☹ 80名: 難しい, スプレッドシートに不慣れ, 必要性が分からない